

タカラスタンダード株式会社

2025年3月期 第3四半期

決算説明資料

2025年2月4日

証券コード
7981

水まわりって、大切だから

Takara standard

1. 2025年3月期 第3四半期 決算概要 P. 2 ~ 15

2. トピックス P. 17 ~ 19

2024年4-12月
決算概要

売上高は新築向けが牽引し、第3四半期の過去最高を更新。
営業利益は20%を超える伸びとなり、増収増益。

【売上高】

1,843億円
前期比 +2.7%

リフォーム向けは価格改定に伴う駆け込み需要があった前期と比べ減少したが、新築向けが各製品部門とも好調に推移したことにより増収。

【営業利益】

128億円
前期比 +20.1%

新築向け売上の好調や価格改定効果、在庫削減などの合理化・コストダウンに加え、比較的利益率の高いリフォーム向けの売上が第3四半期に回復傾向となったことなどにより増益。

【四半期純利益】

90億円
前期比 +9.9%

売上高・各段階利益において増収増益となり、通期の業績予想に対しても順調に進捗。

(単位:億円)

	2023年4-12月		2024年4-12月				2025年3月期 業績予想	
	金額	売上比	金額	売上比	増減	増減率	金額	進捗率
売上高	1,794	100.0%	1,843	100.0%	+49	+2.7%	2,391	77.1%
売上総利益	608	33.9%	638	34.7%	+30	+5.0%	—	—
販売費及び 一般管理費	500	27.9%	510	27.7%	+9	+1.8%	—	—
営業利益	107	6.0%	128	7.0%	+21	+20.1%	145	88.8%
経常利益	110	6.2%	132	7.2%	+21	+19.7%	147	90.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	82	4.6%	90	4.9%	+8	+9.9%	97	93.3%

経営成績(四半期別対比)

Takara standard

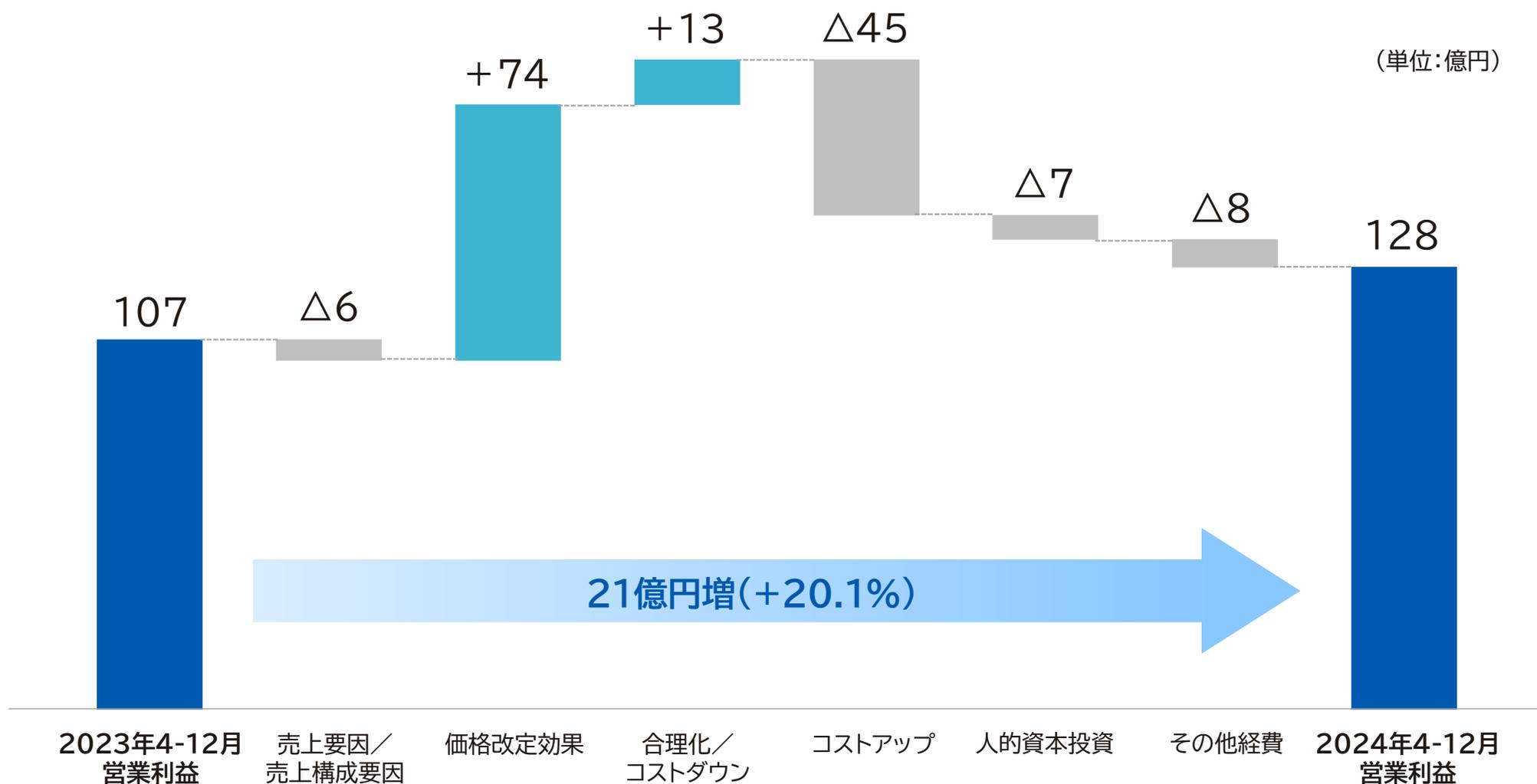
第3四半期は、売上高は新築向けの好調継続に加え、リフォーム向けが回復傾向で推移。
営業利益は比較的利益率の高いリフォーム向けの回復による改善に伴い、売上総利益が向上したことで上昇。

(単位:億円)

	2023年				2024年							
	上期 (4-9月)		第3四半期 (10-12月)		上期 (4-9月)				第3四半期 (10-12月)			
	金額	売上比	金額	売上比	金額	売上比	増減	増減率	金額	売上比	増減	増減率
売上高	1,146	100.0%	647	100.0%	1,159	100.0%	+12	+1.1%	683	100.0%	+36	+5.6%
売上総利益	384	33.5%	223	34.6%	396	34.2%	+12	+3.2%	242	35.5%	+18	+8.3%
販売費及び 一般管理費	331	28.9%	169	26.2%	336	29.1%	+5	+1.7%	173	25.3%	+3	+2.0%
営業利益	53	4.6%	54	8.4%	59	5.1%	+6	+12.3%	69	10.1%	+15	+27.9%
経常利益	54	4.8%	55	8.6%	61	5.3%	+6	+11.6%	71	10.4%	+15	+27.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	44	3.9%	38	5.9%	38	3.3%	△5	△12.3%	51	7.6%	+13	+35.7%

営業利益の増減要因

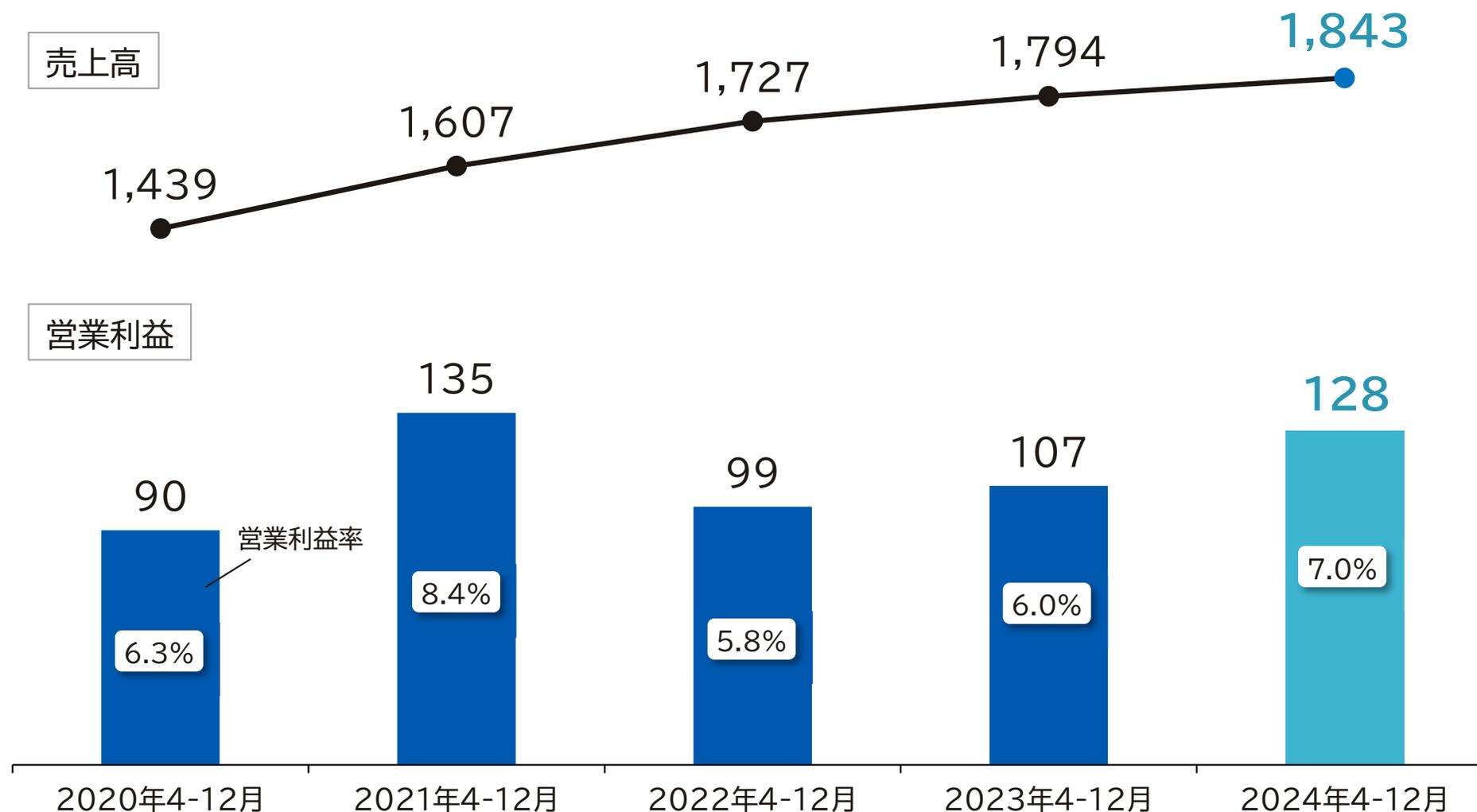
原材料仕入などのコストアップによる減益要因があったものの、2023年度実施の価格改定効果が当期にも寄与、また在庫圧縮など合理化・コストダウンを実施に加え、第3四半期においてはリフォーム売上が回復基調に転じたことで利益増加となった。



売上高 及び 営業利益の推移

Takara standard

(単位:億円)

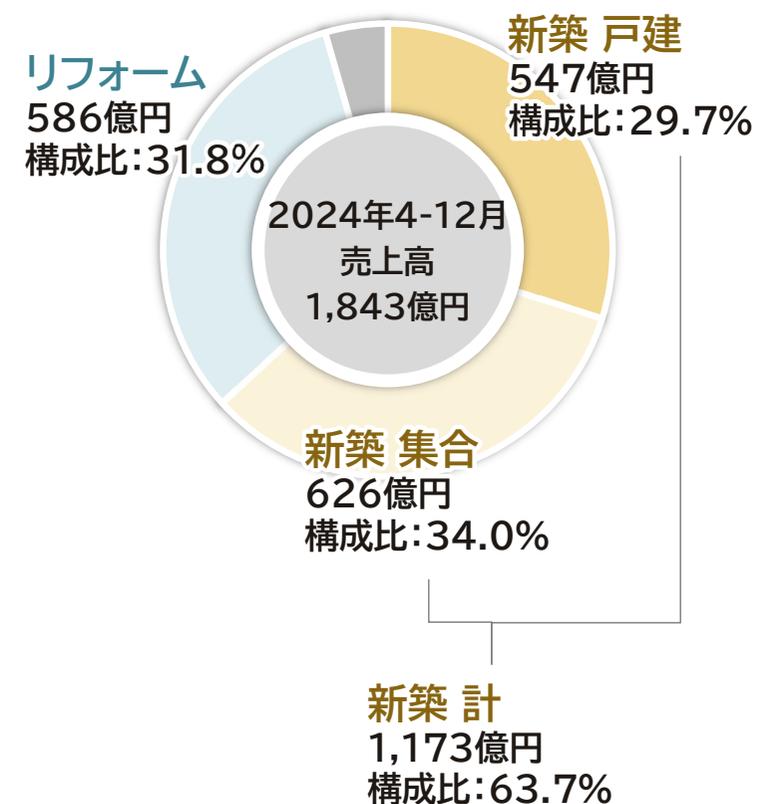


※2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、2020年4-12月は遡って適用した数値となっております。

リフォーム向けは前期の価格改定に伴う駆け込み需要の反動により下回ったものの、新築集合は都市圏における需要が底堅かったことや価格改定の寄与により、好調に推移したことで累計でも増収。

(単位:億円)

	2023年4-12月		2024年4-12月				
	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率	
新築	戸建	534	29.8%	547	29.7%	+13	+2.5%
	集合	559	31.2%	626	34.0%	+66	+11.9%
	計	1,093	60.9%	1,173	63.7%	+80	+7.3%
リフォーム	618	34.5%	586	31.8%	△32	△5.2%	
その他共 計	1,794	100.0%	1,843	100.0%	+49	+2.7%	



市場別の売上高(四半期別対比)

第3四半期も引き続き新築集合向けが全体を牽引。

リフォーム向けは、ボリュームゾーン商品の仕様強化やユーザーの予算に合わせた最適な提案の推進など、各施策が奏功し、第3四半期単独では前期同水準まで回復。

(単位:億円)

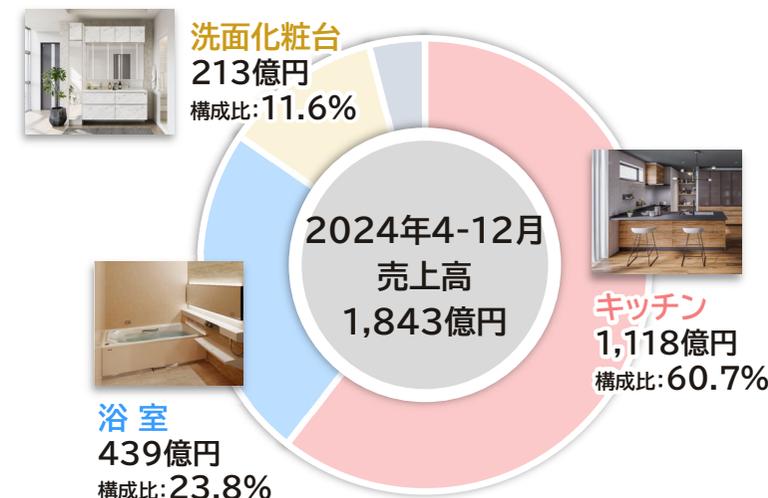
	2023年				2024年								
	上期 (4-9月)		第3四半期 (10-12月)		上期 (4-9月)				第3四半期 (10-12月)				
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率	金額	構成比	増減	増減率	
新築	戸建	343	29.9%	190	29.5%	347	29.9%	+3	+1.0%	200	29.3%	+9	+5.1%
	集合	344	30.0%	215	33.3%	386	33.3%	+42	+12.3%	239	35.1%	+24	+11.4%
	計	687	59.9%	405	62.7%	733	63.2%	+45	+6.6%	440	64.4%	+34	+8.5%
リフォーム		406	35.5%	211	32.7%	374	32.3%	△32	△8.0%	212	31.0%	+0	+0.1%
その他共 計		1,146	100.0%	647	100.0%	1,159	100.0%	+12	+1.1%	683	100.0%	+36	+5.6%

製品部門別の売上高

各製品部門とも、リフォーム向けは前期を下回ったものの、キッチン・洗面化粧台は、新築市場でシェアの高い集合住宅向けが好調に推移したことにより増収。

(単位:億円)

	2023年4-12月		2024年4-12月			
	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率
キッチン	1,072	59.8%	1,118	60.7%	+45	+4.2%
浴室	437	24.4%	439	23.8%	+2	+0.5%
洗面化粧台	205	11.4%	213	11.6%	+8	+4.1%
その他共 計	1,794	100.0%	1,843	100.0%	+49	+2.7%



【内数】

パネル関連売上	54	3.0%	53	2.9%	△1	△2.1%
海外事業売上	9	0.5%	8	0.5%	△0	△4.3%

製品部門別の売上高(四半期別対比)

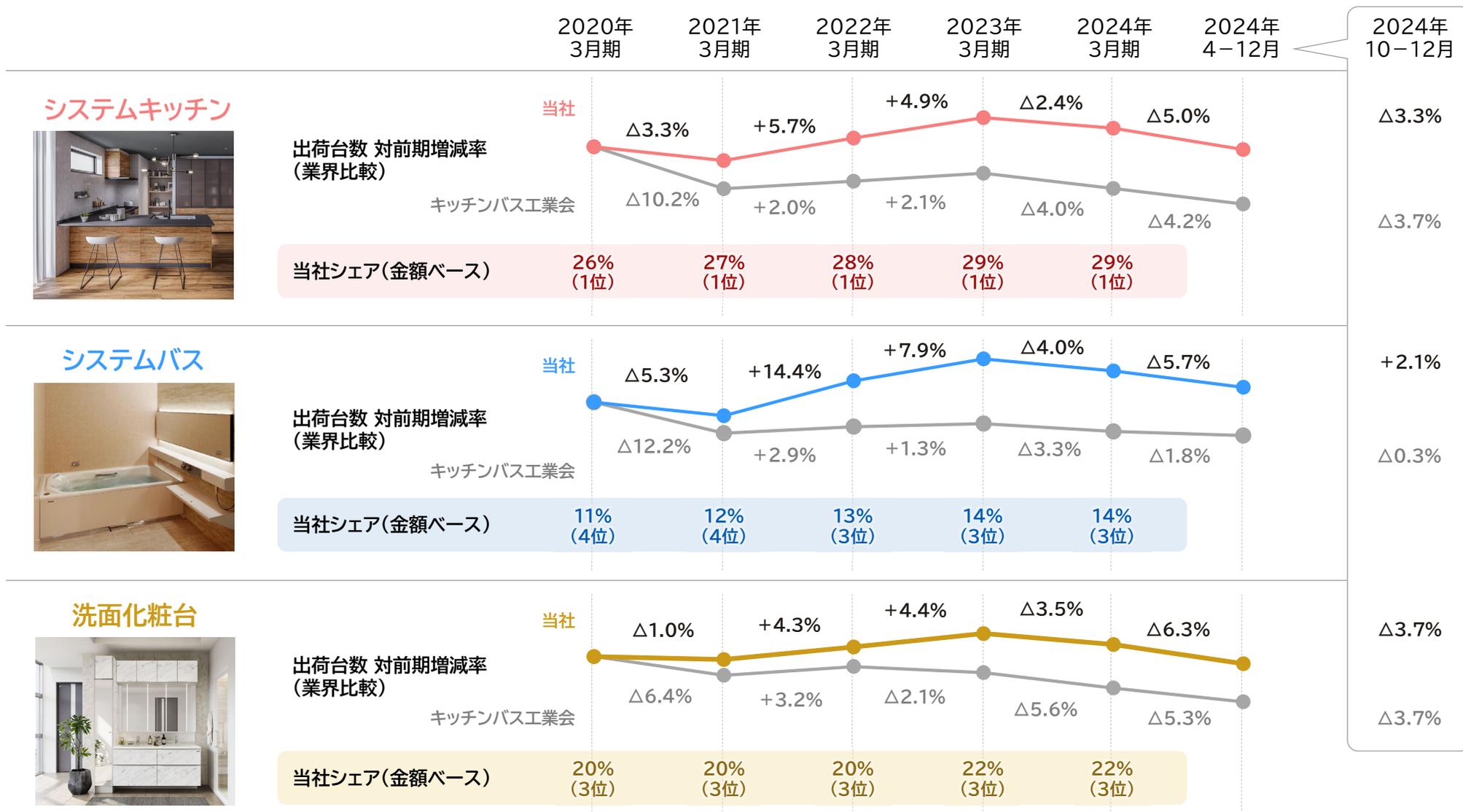
浴室はリフォームの販売比率が高く、リフォーム向けの回復に合わせて第3四半期は増収に転じる。

(単位:億円)

	2023年				2024年							
	上期 (4-9月)		第3四半期 (10-12月)		上期 (4-9月)				第3四半期 (10-12月)			
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率	金額	構成比	増減	増減率
キッチン	680	59.3%	392	60.7%	701	60.5%	+21	+3.1%	416	60.9%	+23	+6.1%
浴室	285	24.9%	151	23.5%	279	24.1%	△5	△2.0%	159	23.4%	+7	+5.1%
洗面化粧台	129	11.3%	75	11.6%	131	11.4%	+2	+1.6%	81	11.9%	+6	+8.4%
その他共 計	1,146	100.0%	647	100.0%	1,159	100.0%	+12	+1.1%	683	100.0%	+36	+5.6%
【内数】												
パネル関連売上	34	3.0%	19	3.0%	33	2.9%	△1	△3.5%	19	2.9%	+0	+0.4%
海外事業売上	5	0.5%	3	0.5%	5	0.5%	△0	△2.4%	2	0.4%	△0	△8.0%

出荷台数増減率 及び 当社シェアの推移

出荷台数の対前期増減率は業界(キッチン・バス工業会)に対し、足元は前期の駆け込み需要の影響によりやや低調に推移。



※キッチン・バス工業会の台数増減率は、システムキッチン合計、システムバス合計、洗面化粧台合計の対前期増減率を記載
 ※業界シェアは当社調べ

貸借対照表

2024年12月末の総資産は 2,748億円、前期末比 61億円の増加。

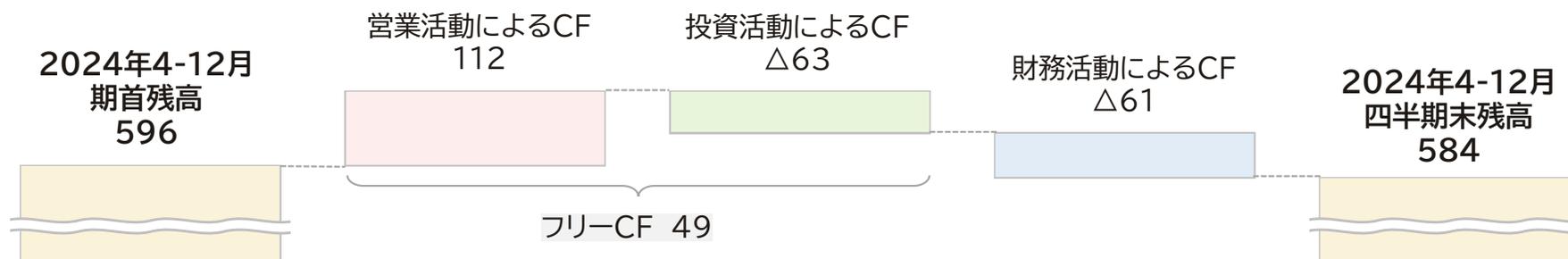
(単位:億円)

		2024年 3月末	2024年 12月末	増減	主な内容
資産	流動資産	1,549	1,600	+50	売上債権 +86 現金及び預金 Δ12 棚卸資産 Δ33
	固定資産	1,137	1,148	+11	有形固定資産 +20
資産合計		2,686	2,748	+61	
負債	流動負債	612	628	+16	仕入債務 +39 未払法人税等 Δ17
	固定負債	200	202	+2	
負債合計		812	831	+18	
純資産		1,873	1,916	+42	四半期純利益 +90 自己株式の取得 Δ15 剰余金の配当 Δ37
負債純資産合計		2,686	2,748	+61	

キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の四半期末残高は、期首596億円から12億円減少し、584億円となった。

(単位:億円)



	2023年 4-12月	2024年 4-12月	主な内容
現金及び現金同等物の期首残高	803	596	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△115	112	税金等調整前四半期純利益 131 仕入債務の増加 42 棚卸資産の減少 33 売上債権の増加 △85
投資活動によるキャッシュ・フロー	△49	△63	有形固定資産の取得による支出 △73
フリーキャッシュ・フロー	△165	49	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△77	△61	配当金の支払額 △37 自己株式の取得による支出 △15 短期借入金の減少 △9
現金及び現金同等物の四半期末残高	561	584	

増収増益を計画（売上高:1.9%増、営業利益:16.7%増）

新築市場向けの好調を維持しつつ、リフォーム市場向けでの「商品力の強化」、「提案力の取組み強化」を更に推進。また、生産性の向上、合理化による収益力の改善をより一層図り、業績予想の達成を目指す。

（単位：億円）

	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	増減	
			増減	増減率
売上高	2,347	2,391	+43	+1.9%
営業利益	124	145	+20	+16.7%
営業利益率	5.3%	6.1%	+0.8P	—
経常利益	127	147	+19	+14.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	95	97	+1	+2.1%

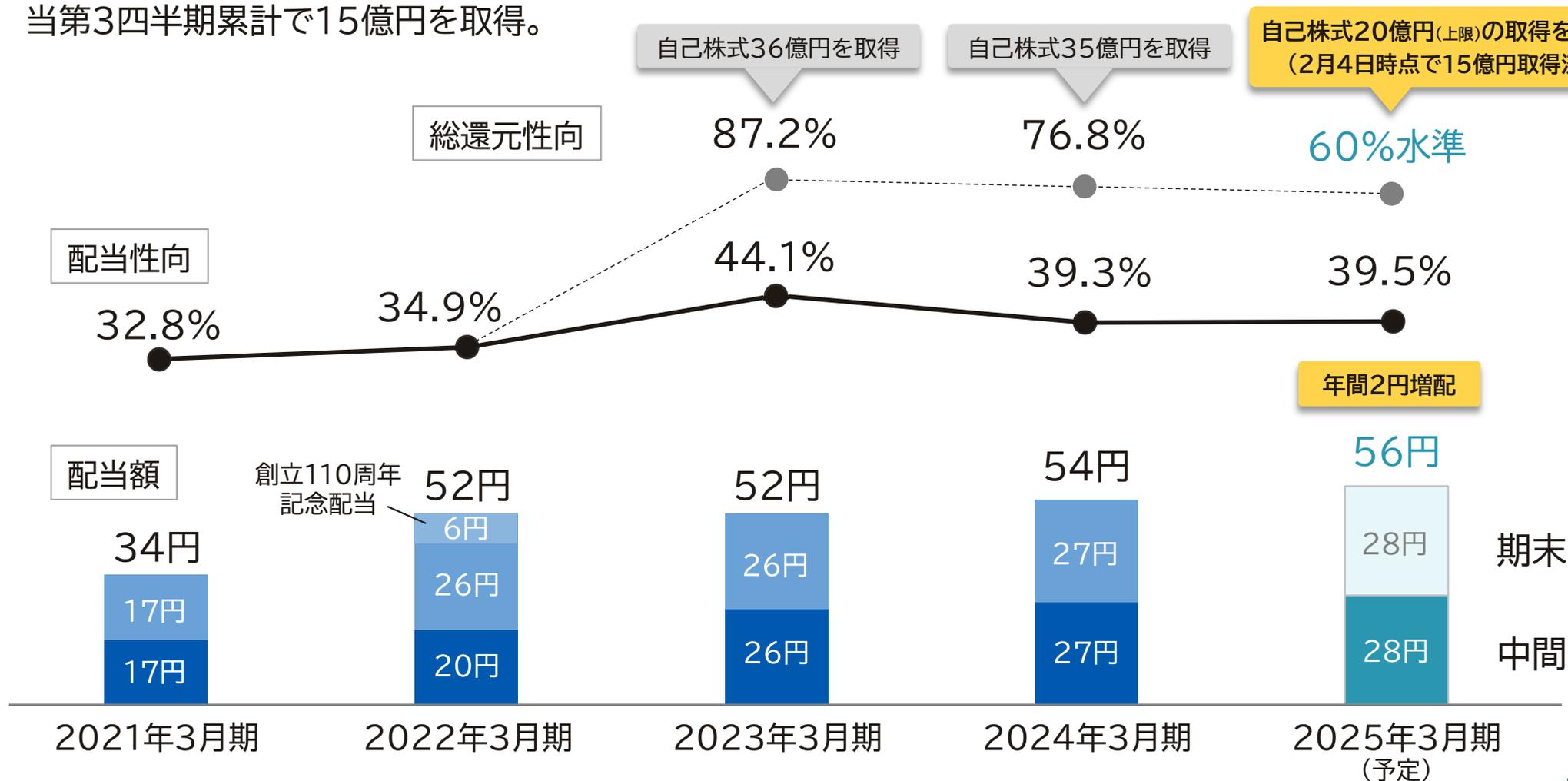
資本効率の向上及び株主還元の充実を目的に、 2025年3月期は「増配」と「自己株式取得」を予定

2025年3月期の配当は年間56円(2円増配)を予定。また自己株式20億円(上限)の取得を計画しており、当第3四半期累計で15億円を取得。

自己株式36億円を取得

自己株式35億円を取得

自己株式20億円(上限)の取得を計画
(2月4日時点で15億円取得済)



1. 2025年3月期 第3四半期 決算概要 P. 2 ~ 15

2. トピックス P. 17 ~ 19

第3四半期は移転・リニューアル 3カ所を実施

全国47都道府県に約160カ所。お客様が商品を「見て、触れて、納得」いただける地域密着型のショールームを展開。



岐阜県 **移転**
多治見ショールーム
(2024年10月)



愛知県 **リニューアル**
岡崎ショールーム
(2024年10月)



兵庫県 **リニューアル**
神戸ショールーム
(2024年11月)

WEB活用によりショールームへの来場を促進

360°見渡せる バーチャルショールーム



ショールーム 展示品情報



WEB予約システム



「ケミカル マテリアル Japan」に初出展 ホーローで培ったガラスフリット技術を紹介

2024年11月に開催された化学産業領域を対象とする総合展示会「ケミカル マテリアル Japan」に初出展しました。



当社のホーローは、鉄にガラス質の釉薬を吹き付け、高温で焼き付けて作られます。釉薬は、ホーローの品質を左右する重要な原料で、ガラスの粉末に添加物を加えて作られますが、当社では釉薬に使われているガラスフリットも自社で独自に開発・製造。その高い技術力を生かして、自社用だけではなく、さまざまなニーズに合わせてオリジナル製品を提供しています。

展示会への出展を通じて、ホーロー製造で培ったノウハウを生かした、歯科材やUV 硬化接着剤などに用いられる高い性能のガラスフリット事業の認知度向上を目指します。

2024年10月 インド・ベンガルールで開催された アジア最大級の住設・建材展示会 「Economic Times ACETECH展」に出展

当社は今後の海外事業においてインドを重点戦略候補国として位置付けており、現地でのホーローの受容性調査やパートナー候補企業選定のため出展しました。



多くのインテリアデザイナーや設計会社の担当者が当社ブースへ来場し、ホーロー製品の清掃性やデザイン性、耐久性を高く評価いただきました。



施工品質と施工能力向上のため 海外代理店専用の施工研修を開始

海外代理店専用施工研修を、2024年10月から開始し、第1回には台湾の代理店4社が参加しました。



当社のキッチンや浴室のホーロー壁パネルは特有の知識と技術が必要で、認定施工士が設置を担当しています。

この度、今後の海外事業拡大に伴う施工能力のさらなる拡大と、施工品質の向上のため、海外代理店専用の施工研修を開始。年間8回程度の開催を予定しており、需要に応じて受講枠の拡大を検討していきます。

当社の海外事業は現在、台湾、中国、ベトナムの3エリアを中心に展開しています。今後はインドやインドネシアといった新規エリアへの進出も検討しており、さらなる事業拡大を図ってまいります。

描いて塗ってアートが楽しめる ホーロー製の『ムーミン谷のおえかきひろば』誕生

当社のホーロー内装材が、株式会社ムーミン物語が運営する「ムーミンバレーパーク(埼玉県)」の新エリアにできる『ムーミン谷のおえかきひろば』の素材として採用されました。



「高品位ホーロー」は鉄の丈夫さとガラスの美しさを併せ持った素材で、耐久性や清掃性、耐候性に優れています。その特徴をご評価いただき、公共施設や駅舎、企業の社屋など、不特定多数の方が利用されるパブリックスペースにも多数ご採用いただいています。今回、繰り返しお絵描きや塗り絵が可能であること、多くの方にご利用いただいてもいつまでも新品同様の美しさが続くことから、自由にアート体験を楽しんでいただける『ムーミン谷のおえかきひろば』への採用が決定しました。

土屋太鳳さん出演、宮崎美子さんを迎えた 新CMを放送開始

今回の新CM ではショールームアドバイザーとして6年目を迎えた土屋太鳳さんが宮崎美子さんをお客さまとしてお迎えします。



CMのテーマは「人生これから」、CM内では、60歳を過ぎてから、YouTubeや料理やボルダリングなどさまざまなチャレンジをしながら人生を楽しんでいる宮崎さんが、より人生をより前向きに楽しく快適に過ごすためにリフォームをしよう！とショールームに訪問。楽しく会話をしながら、リフォームのニーズを引き出し、リフォーム後の健やかで快適な暮らしをイメージさせる土屋さんの姿などが描かれています。

< IRお問い合わせ先 >

タカラスタンダード株式会社

管理本部 IR部

TEL

06 - 6180-6677

E-mail

ir@takara-standard.co.jp

水まわりって、大切だから

Takara standard

本資料は、2025年2月4日現在の計画に基づく予測が含まれています。これらの計画と予測は、リスクや不確定要因を含んだものであり、実際の業績が当社の計画と異なる結果となる可能性があります。